

～ 日本海難防止協会シンガポール連絡事務所発SRO news ～
(Ref No : 24-011)

1 金曜日（8月9日）、太平洋諸島フォーラム外相会議に出席するためフィジーのスパを訪れているニュージーランド（NZ）と豪州の外相は、米国、フランス、ドイツ、日本、英国などのパートナーとともに、4750万ニュージーランド・ドル（※約41億円）を投資し、太平洋全域に人道支援倉庫を設置することを発表した。

NZのピーターズ外相は、太平洋島嶼国はサイクロン、地震、津波、洪水、火山噴火、病気など、さまざまな自然災害その他のリスクに晒されており、これらの災害発生から48時間以内に人道支援物資を入手できるようにすることで、緊急的ニーズに対応できるよう支援すると述べた。

このイニシアティブにより、太平洋島嶼国14カ国と東ティモールに倉庫が建設される。

[原文](#)

(9th August 2024, Radio NZ)

2 月曜日（8月12日）、ニュージーランド（NZ）のピーターズ副首相兼外相は、マーシャル諸島が自然災害や気候変動によるリスクに備え、適応できるよう、620万ニュージーランド・ドル（※約5億4000万円）の資金援助を行うことを発表した。

今週ミクロネシア地域を周遊しているピーターズ氏は、このプロジェクトは、両国の協力関係を強化し、災害や気候変動の影響に直面している島々のレジリエンスを高めることを目的としていると語った。

NZ代表団は、マーシャル諸島のハイネ大統領、Lakjohn 大統領補佐官、カネコ外務大臣ら閣僚ほか複数の国会議員と会談した後、ミクロネシア連邦とパラオに向かう予定である。

[原文](#)

(12th August 2024, Radio NZ)

3 パラオの現職大統領のウィップス氏及び前大統領のレメンゲサウ氏は、パラオ選挙管理委員会に対し、正式に大統領選に向けた請願書を提出した。

また、現職副大統領のセンゲバウ氏と前副大統領のオイロー氏も、同委員会に対し、正式に副大統領選に向けた嘆願書を提出した。

大統領及び副大統領候補はそれぞれ2名で、予備選挙は行われない。有権者は11月5日に予定されている総選挙で大統領と副大統領を選ぶことになる。

[原文](#)

(9th August 2024, PACNEWS)

[原文](#)

(9th August 2024, PACNEWS)

[原文](#)

(6th August 2024, PACNEWS)

4 豪州、米国、カナダ、フィリピンが南シナ海で合同演習を行う。ABC によると、豪州国防省はこの演習に軍艦ではなく P8 偵察機を派遣するという。

4 カ国は声明で、今回の訓練はこの地域における航行と飛行の自由を守るためのものであり、我々の総意として、自由で開かれたインド太平洋を支持し、地域的、国際的な協力関係を強化するためのものであると述べている。

参加国によると、訓練海域は「フィリピンの排他的経済水域内」である。

この訓練が中国の反感を買うのはほぼ確実である。豪州は今年 4 月、フィリピン、米国、日本とともに同様の演習に参加し、その際も中国は南シナ海における空・海軍パトロールの実施により応戦している。

[原文](#)

(7th August 2024, Radio NZ)

5 豪州、米国（ダーウィン海兵隊）、インドネシアの 3 カ国は、豪州のノーザン・テリトリーで、大規模な国際人道支援・災害救援（HADR）演習である「Bakti Kanyini AusIndo 2024」（BKA24）を実施する。

BKA24 では、水道の復旧や緊急医療支援などの被災地域への支援から、地域復興のための清掃活動に至るまで、災害対応におけるあらゆる活動の演習が行われる。

このような事態では、参加国がシームレスに連携することが不可欠であり、演習により相互運用性の構築と強化を図る。

BKA24 は軍だけでなく、豪州外務貿易省、米国人道支援局、インドネシア国家捜索救助庁などの政府機関とも連携して実施される。

同演習には、英国、東ティモール、パプアニューギニアがオブザーバーとして初参加する。

[原文](#)

(13th August 2024, Defence AU)

6 キリバスでは水曜日（8 月 14 日）に国政選挙が行われた。有権者にとっての主要な争点は、中国との密接な関係、気候変動対策、生活費の圧迫であった。

今回の選挙は、親中派であるマーマウ大統領が 2019 年に外交関係を中国に切り替えたことに対する国民投票とも見られていたが、マーマウ大統領は大勝をもって議席を維持した。

マーマウ大統領は、キリバスの野党党首である Lambourne 氏と結婚した豪州出身の高等裁判所判事を解任し国外追放したことで、国際的な論争を呼んでいる。今回の選挙では、Lambourne 氏も議席を維持した。

議会は9月13日に再開され、新議長と大統領選挙の候補者が選出される。キリバス国民はその後、大統領を選ぶための投票を行う。

キリバスでは、経済的・環境的な課題が山積している。最低賃金は0.99ドルで、失業率は依然として高い。昨年の消費者物価指数は9%以上上昇している。海面上昇の脅威にも晒されており、地下2メートルにある地下水は海水の侵入などで簡単に汚染されてしまう。

過去の政権下では、キリバス政府は気候変動問題に対し、世界的に卓越した活動を行ってきたとも言われているが、マーマウ政権は深海採掘を支持しており、環境保護団体と対立している。

[原文](#)

(13th August 2024, Reuters)

[原文](#)

(16th August 2024, PACNEWS)

7 金曜日(8月9日)にフィジーで開催された太平洋諸島(PIF)外相会議において、豪州のウォン外相は、約1,850万豪ドル(1,215万米ドル)を投資し、太平洋島嶼国の海洋・漁業調査船を建造することを発表した。

この船舶は、海洋資源の持続可能な管理と気候変動の影響を監視するために不可欠な科学的情報を収集するものである。

この支援は、日米豪印(クアッド)の「海洋状況把握のためのインド太平洋パートナーシップ(IPMDA)」に対する豪州のコミットメントの一環であり、PIF漁業機関(FFA)を通じて行われる。

ウォン外相は、衛星データの提供、研修訓練、キャパシティ・ビルディングを通じて、海域における違法行為の探知能力を向上させると述べた。

[原文](#)

(12th August 2024, PACNEWS)

8 金曜日(8月9日)の太平洋諸島フォーラム(PIF)外相会合において、福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の海洋放出に関する独立専門家パネルの復活が合意された。太平洋島嶼国が自ら科学的分析を行うことができるようになることを目的とした動きと見られる。独立専門家パネルは以前、PIFと国際原子力機関(IAEA)の対話を促進する上で重要な役割を果たしていた。

PIF議長であるクック諸島のブラウン首相は、太平洋地域がIAEAと同等の監視、モニタリング作業を行えるよう、太平洋地域におけるキャパシティ・ビルディングと強固な監視システムの必要性を強調し、そのためにIAEAの関与が必要であると述べた。

独立専門家パネルを復活させるという決定は、長期的な環境問題に直面する太平洋島嶼国の懸念に確実に対処し、地域の安全を優先させるという継続的なコミットメントを示すものである。

[原文](#)

(15th August 2024, PACNEWS)

9 ミクロネシア連邦 (FSM) は、国際パートナーとの連携協力を通じ、安全かつレジリエントな社会の構築に向けた国家の取り組みとして、ポリス・アカデミーを公式に設立したことを発表した。

ポリス・アカデミーでは、国家警察及び全 4 州の州警察職員が法執行のための技量、知識の向上を図る。

ポリス・アカデミーは、米国を含む国際パートナーからの援助のほか、国連薬物犯罪事務所 (UNODC) 及び国連開発計画 (UNDP) から専門トレーナーの派遣を受け、訓練プログラムがより強化されている。

[原文](#)

(14th-27th August 2024, The Kaselehlie Press)

FSM launches 2024 Police Academy to enhance National and State law enforcement

FSM Information Services

August 5, 2024

Madolenihmw, Pohnpei—The Federated States of Micronesia (FSM) proudly announces the official opening of the 2024 FSM Police Academy, held at the campus of the former Pohnpei Agriculture and Trade School (PATS) in Madolenihmw. This significant

building programs for present and future law enforcement agencies, with a focus on law enforcement services, protection of civil rights and maintenance of peace and order.”

The Honorable Vice President Aren B. Palik delivered keynote remarks, where he extended deep respect to the



event marks a collaborative effort to enhance the capacity and skills of law enforcement officers across the nation.

The ceremony commenced with an opening remark by Acting Secretary of Justice Leonito Bacalando Jr. He emphasized the vision for the Police Academy “to professionalize law enforcement services across the FSM through comprehensive training opportunities for all law enforcement officers.” He also stressed on the need “to provide continuing capacity-

traditional guardians of the land and emphasized the historical significance of the venue.

Vice President Palik highlighted that the site of the academy is a fitting location for advancing the rights of the people and promoting community harmony, tracing back to the decentralization efforts during the Saudeleur dynasty by Isokelekel.

“An act in history that marked Pohnpei’s first move towards promoting the rights of the people and harmony

within the communities. And so, it is only fitting that our efforts of building the capacity of our law enforcement sector be held on this very same ground.” he stated.

The Vice President recognized the critical role of various stakeholders in making the Police Academy possible. Special thanks were extended to the Department of Justice for their meticulous organization, the 23rd FSM Congress for their financial support, and the Catholic Church for providing the facilities at PATS.

The Vice President also acknowledged the presence of esteemed guests, including Ambassador Jennifer Johnson from the US Embassy and Ambassador Genny Grant-Curnow from the Australian Embassy. Their participation underscores the importance of international partnerships in bolstering FSM’s law enforcement capabilities.

[click here for continuation](#)

...Academy

continued from previous page

The FSM Police Academy aims to equip national and state police officers with advanced skills and knowledge essential for performing their duties with excellence, safety, and integrity. This year's academy sees participation from all four FSM states and the national government, highlighting a unified effort to strengthen law enforcement across the nation.

Vice President Palik emphasized the Academy's role in enhancing the ability to combat crime and uphold justice, which is critical in maintaining public safety and trust within the community. He underscored the importance of collaboration between the National Government and State Governments, facilitated

by existing joint law enforcement agreements and annual funding from the FSM Congress.

The Academy benefits from the assistance of international partners, including the United States through various agencies such as the Joint Interagency Task Force West and the Defense Institute of International



Legal Studies. Additionally, the United Nations Office on Drugs and Crime and the United Nations Development Programme (UNDP) have contributed expert trainers, further bolstering the



training program.

The Vice President commended the officers, "I would like to commend the officers embarking on this journey for their dedication and sacrifices. Your willingness to be away from your families during this period speaks volumes about your civic duty, personal pride, patriotism, and unwavering commitment to peace and security," he stated.

In his closing remarks, Vice President Palik encouraged the officers to persevere in their service to the

community, acknowledging the daily challenges they face. He reaffirmed the Simina-Palik administration's commitment to supporting law enforcement agencies in achieving their mission, promoting good governance, accountability, and transparency in public service.

The FSM Police Academy stands as a testament to the nation's dedication to building a secure and resilient society through collaboration and synergy with international partners.